

# 災害救護活動拠点における被災者名簿共有を利用した複数人参加の被災者対応訓練

1180332 佐藤 文也 【 ネットワーク信号処理研究室 】

## 1 はじめに

災害発生時、自治体に予め定められた病院の外には被災者の一時避難や応急手当等を目的とした災害救護活動拠点が開設される。災害救護活動拠点では被災者の安否確認や拠点内の状況把握のために、被災者名簿が作成される。被災者への迅速な対応のために、被災者名簿を電子化し、作成時の手間を減らすためのシステムが提案されている。このシステムは電子機器を使用して名簿作成を行うため扱いに慣れが必要である。このシステムを使った訓練を平常時から行える研究があるが運用されていない。本研究では、情報共有の工程を紙媒体と電子媒体の実行方法で比較し、災害救護活動拠点に合った情報共有の仕組みを提案する。

## 2 災害救護活動拠点における情報共有

災害救護活動拠点では、総合受付で怪我の度合いや医療対応の要否などに応じて、被災者を複数の処置エリアに誘導する [1]。その流れを図 1 に示す。災害救護活動拠点では被災者の個人情報や被災者への対応情報を記録するための名簿が作成される。名簿は全てのエリアで記録する必要があるため大量の情報を作成される。これらの情報を電子化して一元的に管理するシステムが提案された。このシステムは電子端末を操作するため扱いが難しい。このシステムの扱いに慣れるため平常時からこのシステムを用いた名簿作成を訓練できるシミュレータが提案されているが運用はされていない。

## 3 紙媒体と電子媒体の情報共有方法の比較

災害救護活動拠点での情報共有は「作成、複製、伝達、閲覧」の工程に分けることができる。これらの工程は災害救護活動拠点内で行なわれるため工程ごとに必要とさ

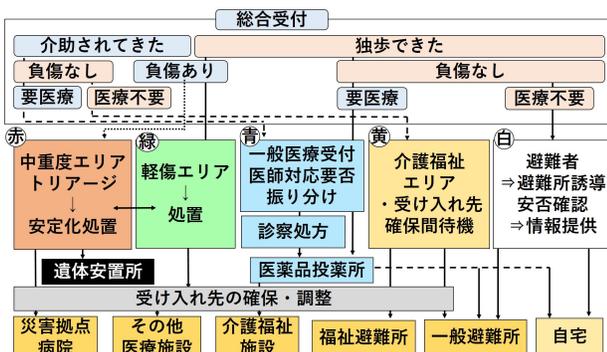


図 1 災害救護活動拠点内の役割と活動の流れ

表 1 複製の実行方法比較

	複製速度	コスト	特別な道具
手書き	×		
複写紙	×	×	×
コピー機	×	×	×
電子端末			×

れる条件を設定し、工程ごとの紙媒体と電子媒体の実行方法の比較を行なった。表 1 に複製の実行方法比較を示す。比較の結果、複製と伝達は電子媒体で行う方法が良いことがわかった。作成と閲覧は紙媒体と電子媒体のどちらが良いか判別できなかった。この結果を基に複製と伝達を電子化した情報共有システムを提案する。作成と閲覧に関してはどちらが良いか判別できなかったため、今回は作成と閲覧も電子化した。

## 4 提案する情報共有システム

本研究では情報共有を工程ごとに分け、それぞれに対して災害救護活動拠点の条件に合う方法を使った情報共有システムを作成した。

提案した情報共有システムは情報を相手に瞬時に伝達することができる。伝達する情報は一元化しているため、複数のエリアに伝達した場合でも同じ情報が複数存在することはない。

情報作成者は「件名、重要度、有効時間」を情報に追加する。件名は閲覧者が内容を全て見なくても対応する内容か否かを判断可能にするために記述する。重要度は情報を「高、中、低」で評価し、有効時間は救命が可能な時間を設定する。これらから閲覧者は優先すべき情報を判断する。

## 5 まとめ

本研究では、災害救護活動拠点に合った情報共有方法を提案した。提案システムは情報を一元化して共有することができる。今回は、情報共有の工程である作成と閲覧は紙と電子のどちらが良いか判別できなかったため複製と伝達と同じ電子化に合わせたが、今後は情報の作成と閲覧は紙媒体と電子媒体のどちらで行う方が良いか明確にする必要がある。

## 参考文献

[1] “医療救護所内の役割と活動の流れ”，2017年1月20日香南市災害図上演習資料。